



中部食料品盟 中間屋連盟

賛助会員合同懇談会 連携強化し業界発展に貢献

中部食料品盟中間屋連盟は11月19日、「正会員・賛助会員合同懇談会」を名古屋観光ホテルで開催。正会員・賛助会員合わせて198名が出席した。合同懇談会は永津嘉人会長の挨拶に始まり、北海道大学・松藤敏彦名誉教授を講師に「リサイクルと化学物質の誤解」として講演会を実施。テーマで講演会を実施。企業に求められるSDGsのなかでも注目が高まる。連盟は会員の懇親や参加企業の健全な発展を目指すものであり、引き続き会員企業間の連携を強化し、中部の経済に貢献していきたい。食は人の生活に根ざしたものであり、和食はユネスコの無形文化遺産に登録され、日本各地には地域に根ざした食がある。食に関

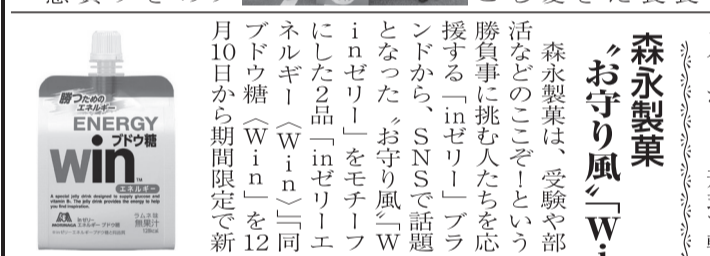


懇談会会場の様子

わる仕事に携わっていることを誇りたい」と挨拶して始まり、カゴメ・伊藤一章名古屋支店長が「今年年初に能登半島地震が起きるなど大変な年となったが、政治やスポーツなど多くの出来事は、喫緊の課題であり、法整備も進められている。日本加工食品卸協会の残暑が長引き秋冬商品の展開が遅れ、個人消費が停滞し景況感が悪化、人手不足や人件費上昇が物流課題への対応に迫る。連盟は会員の懇親や参加企業の健全な発展を目指すものであり、引き続き会員企業間の連携を強化し、中部の経済に貢献していきたい。食は人の生活に根ざしたものであり、和食はユネスコの無形文化遺産に登録され、日本各地には地域に根ざした食がある。食に関

FM、トーカー、寿がきや食品 フードドライブで協力
ファミリーマートとトーカー、寿がきや食品は、学校給食の一時停止などでさらなる食支援が必要となる年末年始に向けて、余剰在庫の加工食品40ヶを、愛知県母子寡婦福祉連合会に寄贈した。今回の寄贈はファミリーマートの家庭での食べられない食品を店舗に集め、地域で子ども食堂やフードバンクなど活動に取り組みNPOや社会福祉協議会などの協力パートナーを通じて、支援が必要な人に届ける「ファミマードライブ

山田伸行専務執行役員、寿がきや食品・水野勇取締役営業本部本部長、社福社連合会・山本広枝理事長が出席。ファミリーマート・成田執行役員は「当社として名古屋を地元とするトーカーと寿がきや食品と連携しフードドライブの取組みを強化する。愛知県は当社のフードドライブの発祥の地であり、企業連携をさらに強化してフードドライブの活動を全国に広げていきたい」と挨拶。トーカー・山田専務執行役員は「企業連携により地域に貢献する活動の主旨に賛同して今回の取組み



ファミリーマートとトーカーのスタッフがフードドライブの取組みについて話し合っている様子

森永製菓は、受験や部活などのごころという勝負事に挑む人々を応援する「inゼリー」ブランドから、SNSで話題となった「お守り風」Winゼリーをモチーフにした2品「inゼリーエネルギー」(Win)と「inゼリー」(Win)を12月10日から期間限定で新

「inゼリー」は勝負事シーンで手軽にエネルギー補給ができる商品として支持を獲得。受験シーズンや部活などでも活用され、昨年の受験シーンでは「inゼリーエネルギー」(Win)に関するSNS投稿で多くの反響があり、売上実績が前年比270%以上となるなど話題となった。近年はまた、部活や受験など勝負事シーンとの親和性から、「inゼリー」の「in」とWin(勝利)の

「inゼリー」は勝負事シーンで手軽にエネルギー補給ができる商品として支持を獲得。受験シーズンや部活などでも活用され、昨年の受験シーンでは「inゼリーエネルギー」(Win)に関するSNS投稿で多くの反響があり、売上実績が前年比270%以上となるなど話題となった。近年はまた、部活や受験など勝負事シーンとの親和性から、「inゼリー」の「in」とWin(勝利)の

11月中旬から下旬にかけての開催など、小売企業での統一感を出すことで事前のワクワク感や一体感をさらに高めたいところだ。

岡山・群馬間の往復輸送で連携スタート
サントリーグは、サポロググループと共同で岡山県から群馬県間の長距離往復輸送の取組を11月13日から開始した。

今回の取組みは両グループが連携し、岡山県から群馬県へはサントリーグの飲料製品などを、群馬県から岡山県へはサポロググループの両製品などを輸送する。トレーラーの輸送では3カ所の中継地点を設け、4人のトラックドライバーがリレー形式で輸送(スイッチ輸送)することで「長距離輸送におけるドライバー1人当たりの労働負担を低減」するほか、従来の積載量より多いトレーラーを使用することで「運行するトラックを両社で年間約150台減らす」「CO2排出量を約45トン削減」の効果が見込まれる。

名鉄百貨店 70周年記念祭盛況
名鉄百貨店は、本店開店70周年記念「開店記念祭」を11月27日・12月10日に実施している。記念イベントは開店70周年を迎え、支えてくれたお客様や取引先の方々に感謝するもの。記念祭では期間限定商品を衣食住で多数用意し、特に地元企業の商品は露出を高めアピール。70周年にちなみ「70th」を刻印した特別感のある商品も注目を集めた。記念企画として専門店と協力して数量限定の「開店記念祭」を用意し好評を得た。さらに数量限定で買い得価格の「特別奉仕品」を展開、七七〇〇円や七七七円などの周年にちなんだインパクトのある価格の商品が登場するなど人気となった。このほか、ドリームカムトゥルー(35周年・常滑市(市制70周年))のコラボを実施し、オリジナルグッズを販売、なかでもパーカーはナナちゃんも着てPR。グルメでも2名までシェアできるデカ盛りチヤレンジや食事券など多彩な企画を実施。直営と専門店が一体となって館全体で周年記念企画を実施し盛り上げている。

東海カンパニーでは、オンモールのナゴヤドーム前で店頭取材会を開催、井上良和部長が「節約志向が顕著となるなか、小売に対して家計応援の期待がありそれに応えるブラックフライデーとなる。今回は、ワクワク感の醸成、消費の喚起」の2軸で過去最大となる2千以上のアイテムを取り揃え

統一感をだそう
11月の大型販促催事ブラックフライデーは着実に定着し、秋商戦の大きな山に育っている。本格的な冬を前に防寒対策として衣料品や暖房器具の購入を提案するだけでなく、1年のご褒美としての家電や高級食材の提案も効果を出しているように。商戦が盛り上がりつつある一方で課題となっているのが、商戦期間のズレである。本場アメリカでは11月第4木曜日の感謝祭の翌日がセールのスタートという明確な基準があるのに対し、日本では感謝祭に馴染みがないこともあり、勤労感謝の日前後からが多いが11月に展開できれば良いという曖昧さであり、各量販企業ごとに展開機関にズレが生じ、統一感がなく盛り上がりがない状態にある。11月中旬から下旬にかけての開催など、小売企業での統一感を出すことで事前のワクワク感や一体感をさらに高めたいところだ。

イオン ブラックフライデー活況
イオンは、年間最大級のセール「イオンブラックフライデーセール」を全国のイオン、イオンスタイルなど約600店舗で11月22日から最大10日間開催し活況となった。同社のブラックフライデーは16年からスタートし今年で9回目。消費の落ち込む11月に年末商戦の始まりとなる新たなイベントとして日本に先駆けて導入し大きなイベントに成長した。近年は節約志向が顕著となるなかで、お得感への期待が高まり一層高まっている。この状況に同社は「年に一度のワクワク日本代表」をテーマに、お得感を体

「inゼリー」は勝負事シーンで手軽にエネルギー補給ができる商品として支持を獲得。受験シーズンや部活などでも活用され、昨年の受験シーンでは「inゼリーエネルギー」(Win)に関するSNS投稿で多くの反響があり、売上実績が前年比270%以上となるなど話題となった。近年はまた、部活や受験など勝負事シーンとの親和性から、「inゼリー」の「in」とWin(勝利)の

「inゼリー」は勝負事シーンで手軽にエネルギー補給ができる商品として支持を獲得。受験シーズンや部活などでも活用され、昨年の受験シーンでは「inゼリーエネルギー」(Win)に関するSNS投稿で多くの反響があり、売上実績が前年比270%以上となるなど話題となった。近年はまた、部活や受験など勝負事シーンとの親和性から、「inゼリー」の「in」とWin(勝利)の

「inゼリー」は勝負事シーンで手軽にエネルギー補給ができる商品として支持を獲得。受験シーズンや部活などでも活用され、昨年の受験シーンでは「inゼリーエネルギー」(Win)に関するSNS投稿で多くの反響があり、売上実績が前年比270%以上となるなど話題となった。近年はまた、部活や受験など勝負事シーンとの親和性から、「inゼリー」の「in」とWin(勝利)の

「inゼリー」は勝負事シーンで手軽にエネルギー補給ができる商品として支持を獲得。受験シーズンや部活などでも活用され、昨年の受験シーンでは「inゼリーエネルギー」(Win)に関するSNS投稿で多くの反響があり、売上実績が前年比270%以上となるなど話題となった。近年はまた、部活や受験など勝負事シーンとの親和性から、「inゼリー」の「in」とWin(勝利)の